

生産性と産業集積： 都市の経済性，特化の経済性および地域内競争

池内 健太*

一橋大学経済学研究科[†] 博士課程

概要

どのような産業では特化の経済性が存在し、また、どのような産業では都市の経済性が生産性に対して、大きな影響をもたらしているのであろうか。本研究は長期の市区町村レベルのパネルデータを用いて、日本の製造業における集積の経済性を産業別に分析することを目的とする。製造業の各産業別の労働生産性の決定モデルを実証的に分析することによって、主に以下の2つの仮説検証をおこなう。

第1に、本研究では都市の経済性 (urbanization economy) と特化の経済性 (localization economy) を集積の経済性と定義し、都市の経済性を支持する理論 (Jacobs) と特化の経済性を支持する理論 (MAR・Porter) のどちらに各産業があてはまるかを明らかにする。第2に、本研究は地域内競争 (local competition) と生産性の関係性に注目し、地域内競争がイノベーションを促進するという Porter の理論を産業ごとに検証する。

分析の結果、Within 推定・Between 推定のいずれのケースにおいても、都市の経済性が多くの産業で有意となり、Jacobs の理論が支持される結果であった。この結果は、同一のデータソースのクロスセクションデータを用いた Nakamura(1985)¹ と異なる結果であった。また、いくつかの産業では Within の推定結果のみにおいて地域内競争と生産性の間の正の関係性を予測した Porter の理論を支持する結果が得られた。一方、Between 推定では地域内競争と生産性との間の有意な正の関係性がみられる産業はほとんどなく、Porter の理論が棄却される結果であった。このように本研究の分析結果は、パネルデータを用いることによって集積の経済性の働きがより正確に理解できる可能性をしめしている。

*E-mail アドレス: xi6k-ikuc@asahi-net.or.jp

[†]一橋大学経済学研究科，〒186-8601 東京都国立市中2-1

¹Nakamura, R. (1985) "Agglomeration Economies in Urban Manufacturing Industries: A Case of Japanese Cities," *Journal of Urban Economics*, 17, pp.108-124.